

## 点検評価表(外郭団体)

## I 団体の概要

(令和6年4月1日現在)

団体名	公益社団法人静岡県畜産協会		
所在地	静岡市葵区相生町14番26-3号	設立年月日	昭和49年4月1日
代表者	会長 河原崎 友二	県所管課	経済産業部畜産振興課
設立に係る根拠法令等	なし		
団体の沿革	平成14年4月1日に(社)静岡県家畜畜産物衛生指導協会(昭和49年4月1日設立)と(社)静岡県畜産会(昭和30年12月19日設立)が合併し、名称を(社)静岡県畜産協会と改め設立された。その後、平成18年3月には(社)静岡県畜産物価格安定基金協会と合併し、平成24年3月に静岡県から公益社団法人としての認可を受け、平成24年4月1日付けで公益社団法人静岡県畜産協会が発足した。		
運営する施設	静岡県家畜共同育成場(静岡県設置)の指定管理		
団体ホームページ	<a href="https://shizuchiku.or.jp/">https://shizuchiku.or.jp/</a>		

出資者	出資額(千円)	比率(%)
静岡県	195,000	37.8
静岡県経済連	72,670	14.1
浜松市	20,360	4.0
JAふじ伊豆	17,260	3.3
その他	210,120	40.8
基本財産(資本金)計	515,410	100.0

役職員の状況(人)			
常勤役員	1	常勤職員	16
うち県OB	1	うち県OB	0
うち県派遣	0	うち県派遣	0
非常勤役員	14	非常勤職員	6
役員計	15	職員計	22

## II 点検評価(団体の必要性)

## 1 団体の設立目的(定款)

協会は、畜産業を営む者及びその組織する団体の健全化等に資する事業の実施を通して、家畜衛生の向上及び安全な畜産物の生産性の向上に貢献し、もって国民に対し安全で安心な畜産物を安定的に供給することを目的とする。

## 2 団体が果たすべき使命・役割

家畜自衛防疫の推進により家畜伝染病の発生を予防し、また、畜産経営の支援指導や畜産物の価格安定により畜産経営の健全化を推進し、その結果、安定的な畜産物の生産が可能となり、以て県民の生活の安定を図る。また、県家畜共同育成場において県内酪農家の後継牛を育成することにより、県内産牛乳の生産力を維持し、以て県民の生活の安定を図る。

## 3 団体を取り巻く環境

区分	内容
団体を取り巻く社会 経済環境の変化や 新たな県民ニーズ	農畜産物流通の国際化の伸展に伴う価格競争の激化、飼料や燃油等の価格高騰や、畜産農家の減少に伴う生産力の低下が進む中、農家経営の安定化が重要課題となっている。 また、県民は、安全・安心な県産畜産物の供給(地産地消)を求めている。
行政施策と団体活動との関係(役割分担)	協会は、畜産経営技術の改善指導、家畜自衛防疫の普及推進、家畜共同育成場の管理と後継牛の育成、家畜・畜産物の価格差補填等の事業を実施する等、県の畜産施策を補完する重要な役割を担っている。
民間企業や他の団体との関係(役割分担)	様々な経営形態が混在する現在、補助事業実施や公共施設の管理運営において県全体の窓口になれる組織は当協会しか無く、他団体は、地域や傘下の会員に対する直接的な事業実施主体となっている。 また、安定的な畜産経営を行うためには、経営コンサルタント等による経営分析や技術指導が必要となるが、零細な畜産経営では、高額な費用を要する経営コンサルタントの利用は困難であるため、当協会が、補助事業等を活用してその役割を果たしている。

## 4 事業概要

(単位:千円)

区分	事業名	事業概要	R5 決算	R6 予算
自主事業	死亡獣畜処理円滑化事業	畜産農家から発生する死亡獣畜の適正かつ円滑な処理体制を確立するため、県、市町及び生産者団体からの出資金等により設立された死亡獣畜処理基盤強化基金を運用管理し、その運用益等を以て死亡獣畜処理を民間業者に業務委託するとともに、死亡獣畜の適正処理に関する指導を行う。…(化製場等に関する法律)	16,089	11,572
国補助	家畜自衛防疫推進事業	自衛防疫強化のための関係機関推進調整会議、予防注射実施率向上のための研修会等を開催する。 口蹄疫、豚熱等の海外悪性伝染病が発生した場合、飼養する家畜の淘汰に伴う損失を、生産者等が互助補償する家畜防疫互助事業の推進を図る。…(家畜伝染病予防法)	40,712	64,432
県委託	畜産経営技術指導事業	畜産経営の体質強化と高度化を図るため、経営技術の診断分析、個別指導、集団指導及び経営展開に必要な情報提供等を行う。	1,590	1,590
県補助	ふじのくに畜産フェア開催事業	優良家畜を一堂に集めた静岡県畜産共進会を開催することにより、本県の家畜改良水準を広く示すとともに、家畜改良増殖の推進、家畜飼養管理の向上、消費者の本県畜産への理解醸成を図る。	1,815	1,815
県補助	地域畜産振興事業	畜産農家の経営安定を図るため、経営指導を実施する畜産コンサルタント職員の人件費の一部を助成する。	21,057	22,944
県補助	ふじのくに酪農経営安定化支援ヘルパー事業	酪農ヘルパー事業を実施するヘルパー利用組合の事業推進やヘルパー要員の確保、養成を行う。 酪農家の傷病時の支援対策として互助事業を実施する。	3,561	6,569
県委託	家畜共同育成場管理事業	家畜資源(牛)の確保と畜産経営の安定並びに県民に安全・安心な牛乳、乳製品及び牛肉の供給を図るため、畜産業(牛)を営む経営体から子牛を預り、放牧を通じて足腰の強い後継牛を育成する。…(静岡県家畜共同育成場の設置及び管理に関する条例)	184,455	219,967
県補助	肉用子牛補給金事業	肉用子牛の平均売買価格が、保証基準価格を下回り合理化目標価格を上回った場合に、その差額を補填する。さらに、合理化目標価格を下回った場合には、生産者積立金からその差額の9割を補填する。…(肉用子牛生産安定等特別措置法)	13,594	30,024
その他補助	肉用牛肥育経営安定交付金制度事業	肥育牛1頭当たりの標準的販売価格が、標準的生産費を下回った場合に、生産者積立金からその差額の9割を補填する。…(畜産経営の安定に関する法律)	490,052	782,638
合 計			772,925	1,141,551

5 事業成果指標

指標の名称(単位)	目標(上段)及び実績(下段)				目標値 (年度)
	R3	R4	R5	評価	
家畜防疫互助事業の加入農家率 (牛、豚) (%)	85	85	85	B	80 (R6)
	74	77	77		
年間延べ預託頭数達成率 (%)	100	100	100	B	100 (R6)
	135	100	75		
畜産共進会出品点数 (頭)	110	190	160	B	140 (R6)
	110	136	140		
酪農ヘルパー参加率 (%)	70	70	70	B	60 (R6)
	66	63	58		

※評価 … A:目標達成 B:目標未達成 C:目標未達成(乖離大)

6 事業成果の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
△	<p>家畜防疫互助事業の加入農家率は、現在も経営に重大な影響を及ぼす家畜伝染病の侵入のリスクは高い状況にあるため、ことあるごとに事業の重要性を啓発し、加入率の向上に努める。</p> <p>年間延べ預託頭数達成率は、飼料費等の高止まりによる預託農家の廃業又は後継子牛の生産減少により、目標を下回った。今後、新規預託農家の獲得により目標預託頭数の確保に努めていく。</p> <p>畜産共進会出品点数は、肉牛の部については、計画が達成されたが、乳牛の部では、酪農情勢の悪化により計画出品点数を大きく下回った。今後、酪農家等の意見を聴取し、乳牛の部の開催方法について検討を行う必要がある。</p> <p>酪農ヘルパー参加率は減少傾向にあるが、理由として、ヘルパー事業に参加している農家は中小規模農家の割合が高く、高齢化による廃業があったためである。本質的には、中小規模農家の経営継続には酪農ヘルパー利用が不可欠であり、そのため中小規模農家の事業参加率を高めることが重要である。</p> <p>畜産農家の経営環境の厳しさが増す中、持続可能な経営の確立のため、各事業の必要性を説明し、参加を促していく。</p>	△	<p>家畜防疫互助事業は、依然、家畜伝染病の侵入のリスクが高い状況にあることから、加入率向上のための努力を期待する。</p> <p>家畜共同育成場の預託頭数は、令和5年度はやや減少しており、今後、新規預託農家の獲得等、増頭に向けた努力を期待する。</p> <p>畜産共進会出品点数は、肉牛の部は盛況であったが、近年の厳しい酪農経営状況もあり、乳牛の部の出品頭数が少なく、現状にあわせた計画や運営の工夫を進めてもらいたい。</p> <p>酪農ヘルパーを必要としている農家は、雇用を取り入れていない中小規模の個人経営の酪農家である。個人経営の酪農家は年々減少し続けているため、相対的に大規模法人経営の比率が高くなっている。そのため、酪農ヘルパー参加率が低下している理由は理解できる。ただし、中小規模の酪農家の酪農ヘルパー参加率を高めることは、生産基盤を維持していくことに繋がることから、参加促進を進めてもらいたい。</p>

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

7 団体の必要性の評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<p>当協会で実施している事業は、全て畜産農家経営の安定的な発展に寄与するものであり、畜産農家経営の安定は、県民への安全、安心な畜産物の安定的な供給に繋がることである。</p> <p>現在、畜産経営を取り巻く環境は、グローバル化による外国産畜産物の輸入増、海外で発生している悪性伝染病侵入リスクの増加、飼料価格の高騰等厳しさを増す要因が多々見られる。</p> <p>そのため、現在実施している事業や緊急対策事業の取り組みは、必要不可欠であると考えている。</p> <p>上記の事業の実施主体としては、様々な経営形態の農家に平等に事業展開をする必要があり、また、経営技術指導等は、専門の知識を有した職員の対応が必要であることから、本協会が最も適した団体であると考えている。</p>	○	<p>各種の畜産事業を全畜産農家を対象に全県で一括して実施できる団体は、他に無く、畜産農家や畜産関係団体にとって必須の団体であることから、必要性は非常に高い。</p>

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

8 団体改革の進捗状況(過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況)

行政経営推進委員会意見 (経営健全性に係るもの以外)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
-		
-		
-		

※○:対応済 △:対応中 ×:未対応

### Ⅲ 点検評価(経営の健全性)

#### 1 財務状況

(単位:千円)

区分	R3 決算	R4 決算	R5 決算	評価	備考(特別な要因等)	
						健全性指標
	経常損益 (a+b-e-f)	3,946	-7,546	-5,931	B	死亡獣畜資産(車両更新費用)を積み立てているため
	公益目的事業会計	-2,488	258	-8,354		
	収益事業等会計	-	-	-		
	法人会計	6,434	-7,805	2,423		
	剰余金	97,884	90,337	84,406	A	

※評価 … A:プラス B:特別な要因によるマイナス C:マイナス

区分	R3 決算	R4 決算	R5 決算	主な増減理由等	R6 予算		
						資産の状況	資産
	流動資産	92,031	91,300	83,501		55,850	
	固定資産	778,741	819,078	882,624	事業積立金資産及び死亡獣畜資産の増	911,463	
	負債	620,948	668,101	729,779		744,705	
	流動負債	25,680	26,629	19,928		1,055	
	固定負債	595,268	641,472	709,851	事業積立金資産及び死亡獣畜資産の増	743,650	
	正味財産/純資産	249,824	242,277	236,346		222,608	
	基本財産/資本金	151,940	151,940	151,940		151,940	
	剰余金等	97,884	90,337	84,406		70,668	
	運用財産	0	0	0		0	
収支の状況	収入	事業収益 (a)	535,235	563,119	781,791		1,157,072
		うち県支出額	58,210	96,281	67,867		60,542
		(県支出額/事業収益)	11	17	9		5
		事業外収益 (b)	3,752	164,956	2,024		1,012
		うち基本財産運用益	618	326	319		315
		特別収益 (c)	0	0	0		0
	うち基本金取崩額	0	0	0		0	
	収入計 (d=a+b+c)	538,987	728,075	783,815		1,158,084	
	支出	事業費用 (e)	535,030	572,710	789,746		1,158,084
		うち人件費	95,253	91,598	90,953		102,760
		(人件費/事業費用)	18	16	12		9
		事業外費用 (f)	11	162,911	0		0
特別損失 (g)		0	0	0		0	
支出計 (h=e+f+g)		535,041	735,621	789,746		1,158,084	
収支差 (d-h)	3,946	-7,546	-5,931		0		

## 2 経営改善の取組の実施状況と評価

当協会の経営上、大きな不安定要素である家畜共同育成場管理事業において、預託推進員を配置して預託農家のニーズを頭数の確保に努めるとともに、繁殖方法を預託農家から希望の多い人工授精に変更し、家畜共同育成場としての魅力を高めた。しかし、飼料費の高止まり等による酪農情勢の悪化により、預託農家の廃業や後継乳用子牛の生産減少により預託頭数が大きく減少し、加えて、購入飼料費、光熱費の高止まりのため経営収支が悪化した。このため、草地管理の徹底による購入飼料量の削減と人件費の低減に努めたほか、県から指定管理料の補填を受け、収支を改善することができた。今後も飼料価格の高止まりが予想されるため、利用料金の値上げの検討及びあらゆる経費の節減に努める必要がある。

## 3 赤字の要因(前年度の単年度収支、経常損益が赤字の団体のみ記載)

法人会計では黒字であったが、公益目的事業会計において法人会計の黒字を上回る赤字となったため、法人全体でも赤字となった。  
公益目的事業会計での赤字の要因は、死亡獣畜処理円滑化事業における冷却運搬車の減価償却費であるが、この減価償却費相当額以上を今後の冷却運搬車更新のための死亡獣畜制度維持負担金に繰り入れている。

## 4 経営の健全性の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	死亡獣畜処理制度維持負担金資産への繰入支出(資金移動)を除けば、法人全体としてはほぼ収支相償の状態であり、公益目的事業のみを実施している協会としては、妥当な収支である。	○	金利の低下に伴い、基金運用益が年々減少しているが、経費削減や会費の値上等の努力により経営の健全性を保っていることは大きく評価できる。

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

## 5 団体改革の進捗状況(過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況)

行政経営推進委員会意見 (経営健全性に係るもの)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
コストを意識しながら事業を展開	○ 経営上最も大きな不安定要素である家畜共同育成場管理事業において、新規預託農家の獲得等による預託牛の確保による収益増に取り組むとともに、入札による購入飼料の調達と放牧地の利用率向上により、購入飼料費の縮減を図るなど経費節減に取り組んでいる。	○ 家畜共同育成場管理事業は、経費削減を進めるとともに、サービス向上など、利用者の満足度を高めることにより、令和5年度はやや減少したものの、預託牛が安定的に確保できるようになった。今後は新規預託農家の確保に加え、その他事業についても同様にコスト削減に努めている。

※○:対応済 △:対応中 ×:未対応

## IV 改善に向けた今後の方針

### 1 点検評価を踏まえた経営の方向性

今後の展望、中期的な経営方針(団体記載)	団体の方針に対する意見等(県所管課記載)
<p>当協会は、県の行政施策や団体の事業を補完する役割を果たしており、これからも必要な補助事業等を積極的に受け入れて、確実に実施する。</p> <p>指定管理を受けている家畜共同育成場は、大家畜経営を活性化する資源として大きな潜在能力を有しており、これを活用して、養牛経営で最も重要な課題である乳用種初妊牛及び肉用素牛の安定的な確保に向けて取り組むとともに、放牧場本来の目的である、放牧を活用した足腰の強い牛づくりを推進する。</p> <p>畜産関係任意団体の多くは、農家数の減少等からその存続が危うくなりつつあるので、各団体の活動を活性化することにより会員数の増加を図るとともに、他団体との協力体制を構築して、各団体設立の所期の目的達成に努める。</p> <p>畜産業に対して向かい風となる様々な社会環境変化があった場合、その対応策として実施される新規緊急対策事業の受け皿として当協会が期待されるが、現状では、それらの事業の受け皿になりうる労働力や経済力がない。そのため、今後は協会の体質強化に努める。</p>	<p>より高度な経営・衛生管理などの指導や支援を行政機関やJAなどの団体に代わり実施している。</p> <p>また、全国的に乳用牛の不足が見込まれる中で、優良乳用後継牛の確保のため、家畜共同育成場の施設と牧草地を最大限に活用して、より多くの乳用牛を育成するなど、畜産協会は畜産専門の指導・支援機関として大きな役割を果たしている。</p>

### 2 今年度の改善の取組

団体の取組(団体記載)	団体の取組に対する意見等(県所管課記載)
<p>家畜共同育成場において、預託農家のニーズが高い人工授精等による受胎率の向上に努めるほか、新規預託農家の開拓により、預託牛の確保を図る。</p> <p>放牧地として回復した草地の維持管理に努め、牧養力を更に高めることにより、放牧頭数の増加を推進し購入飼料費の削減を図る。</p> <p>健康な良い牛を育てる上で重要な、発育状況把握のための牛用体重計について、移動式体重計を自作する。</p> <p>死亡獣畜冷却運搬車の維持・更新については、更新費用の積み立て及び事業運営費の確保のため、関係機関や運搬車利用者の理解を得て、令和4年度から運搬車整備維持負担金の徴収を開始した。今後、コスト意識を高め運営費の節減を図るとともに、更新費用の着実な積み立てを行う。</p>	<p>家畜共同育成場については、預託農家の要望に応じていく取組は、評価できる。</p> <p>死亡獣畜処理円滑化事業についても、県とともに関係機関や運搬車利用者の理解に努めていただき、安定的な事業運営につなげていくことを期待する。</p>

## V 組織体制及び県の関与

### 1 役職員数及び県支出額等

(単位:人、千円)

区分	R3	R4	R5	R6	備考(増減理由等)
常勤役員数	2	2	2	1	経済連出向の常勤役員が異動し非常勤役員となったため減員
うち県OB	1	1	1	1	
うち県派遣	0	0	0	0	
常勤職員数	19	18	17	16	正規職員1名と牧場嘱託職員1名の退職による2減 経済連の新任出向者受入で1増
うち県OB	1	0	0	0	
うち県派遣	0	0	0	0	
県支出額	58,210	96,281	67,867	60,542	
補助金	2,924	2,718	2,596	3,368	
委託金	55,286	93,563	65,271	57,174	令和4年度と令和5年度は、飼料費高騰により家畜共同育成場指定管理料の補填金を受領
その他	0	0	0	0	
県からの借入金	0	0	0	0	
県が債務保証等を付した債務残高	0	0	0	0	

※役職員数は各年度4月1日時点、県支出額は決算額(当該年度は予算額)、借入金・損失補償等は期末残高

### 2 点検評価(団体記載)

項目	評価	評価理由
定員管理の方針等を策定し、組織体制の効率化に計画的に取り組んでいるか	△	当協会は、既に団体統合により効率化を進めている。 また、事務事業に係る業務量調査を実施し、労働力の過不足や職員個々の仕事量の均衡化を行い適正な定員数を設定している。 家畜共同育成場の人員についても、預託頭数の変化及び新たな技術対応を考慮して、適正な人員配置を行っている。 しかし、過去2年間で職員3名が中途退職し人員不足となっている。このため、職員補充と給与等の処遇改善が必要となっている。
常勤の役員に占める県職員を必要最小限にとどめているか	○	常勤役員に県OB1人を充てているが、畜産情勢に詳しい人材を公募により採用した結果である。
常勤の職員に占める県からの派遣職員を必要最小限にとどめているか	-	県からの派遣はない。

※ 評価欄 … ○:基準を満たしている △:基準を満たしていないが合理的理由がある ×:基準を満たしていない

### 3 点検評価(県所管課記載)

項目	評価	評価理由
県からの派遣職員について、必要性、有効性が認められるか	-	該当なし
県からの補助金等の支出や借入金等について、必要性、有効性が認められるか	○	令和5年度は、県補助金4事業、県委託金2事業を実施し、県補助金及び委託金の総額は、67,867千円、団体収入に占める県負担割合は、8.7%である。 県委託事業、県補助事業とも県の役割を代替、補完する性格のものであり、必要な支出である。さらに、毎年度見直しを実施し、経費節減にも努めている。

※ 評価欄 … ○:基準を満たしている △:基準を満たしていないが合理的理由がある ×:基準を満たしていない



## VI 更なる効果的事業の実施に向けた取組

### 1 外部意見把握の手法及び意見

区分	実施	結果公表	実施内容	主な意見・評価
外部評価委員会	○	○	家畜共同育成事業については、年1回県が開催する指定管理者評価委員会において専門家による評価を受けている。	施設設置目的の達成、サービスの向上、施設等の維持管理、草地の維持管理、危機管理体制の構築に高い評価を得た。 一方、収支計画について、利用料金を含めた運営費の在り方について県とともに方針を定め具体的な取組を進めることに期待するとの指摘を受けた。
利用者アンケート	○	-	家畜共同育成事業について、利用者アンケートを行い、利用者の意見・要望を収集し、事業の改善の参考とした。 ・帰牧牛の発育評価 ・帰牧牛の問題点 ・牧場への要望 ・今後の牧場利用の考え方等	帰牧牛の発育評価は、大半の預託農家が高い評価であり、総合評価でも、まあまあ良い以上の評価が8割であった。 多くの預託農家が、人工授精による価格の高い子牛を生産できるようにしてほしいと要望している。 今後の牧場利用については、ほとんどの農家が、引き続き利用したいとのことだった。
利用者等意見交換会	-	-	従来から牧場参観デーを開催し、家畜共同育成場に預託農家に来場していただき、意見交換を行っていたが、令和5年度は飼料費の高止まり等の酪農経営が悪化したためか、参観デーの参加希望が無く中止とした。 なお、個別の牧場見学には都度対応している。	-
その他 (利用者の意見収集)	○	-	県下に非常勤畜産コンサルタント6名を配置し、農家巡回等を行い畜産農家の意見を収集している。特に、指定管理者として事業を行っている家畜共同育成事業については、非常勤畜産コンサルタントのうち4名が、預託推進員として預託希望農家の意見要望を収集するとともに、預託予定牛の健康相談等を行っている。 また、牧場職員も預託牛の入退牧の折に、預託農家の意見を聴取している。	帰牧牛の状態が良い。 自然交配は極力やめて欲しい(生産子牛の市場価値が低い) 飼料価格が高止まりで、資金繰りを考えると交雑種子牛生産の比重を高めたい(預託する乳用種子牛の生産を減らしたい。)

○:実施している/公表している    -:実施していない/公表していない

### 2 事業やサービスの見直し例

<p>家畜共同育成事業では、預託農家から希望があった人工授精について、令和元年度から繁殖方法を人工授精主体に変更し、令和2年度からは、性判別精液の受胎率向上に努めている。なお、交配種雄牛の選定については、預託農家の意見を参考に10種類程度(黒毛和種を含む)を選定し、その中から預託農家を選べる方式とした。</p> <p>県や畜産関係団体に係る情報を協会ホームページに随時掲載し、県民に対し積極的な情報提供を行った。</p> <p>生産現場や消費者の関心が高い、農場HACCP及びGAPの指導員資格や審査員資格を職員に取得させ、生産現場からの指導依頼に対応できる体制の整備を進めている。</p> <p>豚熱の緊急対策事業について、畜産物供給の安全確保の観点から、可能な限り対応した。</p>
--